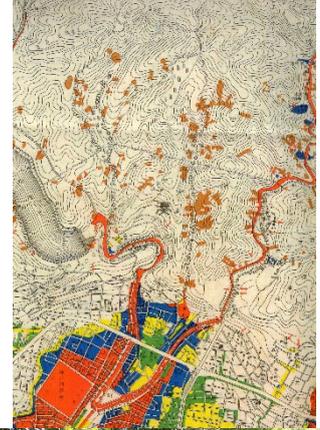


令和6年度(特非) Co-creation このゆびとまれ活動報告書
「山をまるごと遊ぼうこのゆびとまれプロジェクト」

1 事業の目指すところ

(事業の目的、なぜこの事業を実施しようと思ったか、

現在、大規模な土砂災害や風水害、地震災害が多発しています。それは、人類による過度な開発や環境破壊が原因の一つだと言われています。活動地である山林は、右図のように昭和13年の神戸大水害後、再建された弁天王というお社があります。日本では、少子高齢化により、空き家が増加し、山林や神社までも、放置される状況にあります。



そこで、多種多様な世代に対して、山の保全や空き家対策等に関する事業を行い、さまざまな環境問題、青少年の健全育成、こどもの居場所づくり、防災意識の向上などに寄与することを目的とした事業を実施しています。

2 特定非営利活動に係る事業 活動内容

- ・ 4月28日 58人 筍取り 親子や、大学生、近所の人など
4月、5月で合計延べ158人(昨年135人)が来山(1.2倍に)
- ・ 7月から9月、山の保全や物置設置など
- ・ 11月9日 イラストレータと絵を描く会14名参加
11月10日 高専祭で、神戸の山の竹が門として使われる。
- ・ 9月から バンブーグリーンハウス作成開始
- ・ 12月21日、22日 タケ子さんの竹体操
- ・ 12月28日門松作成
- ・ 2月9日 森の音楽会
- ・ その他、ほぼ毎週日曜日、整備や保全



3 成果や課題

- (1) 【成果】親子づれだけでなく学生や近所の方など多くの方が訪れるようになった。高専祭で山の竹で門が作成された。法人のホームページ「以下(HP)という。」から多数、タケノコ掘りのシーズンには申し込みがあった。みなとやま市に出店できた。QRコード参照➡
- (2) 【課題】山だけでなく、街でも活動をと、兵庫区役所近くのパークタウンでタケ子さんの竹体操等をしたが人が集まりにくかった。来年度は、他の団体のコラボ等でもっと参加者やボランティアを増やしたい。



4 今後の展望、成果の活用

山をまるごと遊ぼうこのゆびとまれプロジェクトと銘打ってどちらかという子供むけのプロジェクトをしていたが、今後は、森をアーティストの拠点とすることや防災知識の向上、生物多様性の復活などにより森の恵みの販売などにも取り組むとともに地域交流施設の確保や事例発表の場の設定などを行い参加者の増加など活動の輪を広げたい。